私の集めた異常歯*

口腔解剖学第一教室　恩田千爾

東京歯科大学，および岩手医科大学在職中に集めた様々な程度の異常歯について，次の様に分類し説明した．

I　歯牙全体の異常
　1　歯牙の大きさの異常
　　1）矮小歯，円柱歯，円錐歯（上顎側切歯）
　　2）長い歯と短かい歯（上顎犬歯の長い歯と上顎中切歯の短かい歯）
　2　形態の異常
　　1）舌面歯頸溝と歯根の分岐（上顎中切歯）
　　2）癒合歯（下顎中，側切歯の癒合と，大臼歯にみられる癒合）

II　歯冠の異常
　1　Double-Shovel-Shape（上顎中切歯）
　2　育孔とその組織切片（上顎側切歯）
　3　小咬頭状をした舌面歯頸隆線とその組織切片（上顎犬歯）
　4　咬合面中央結節（上顎第1小臼歯，下顎第2小臼歯）
　5　中央溝の欠除（上顎第2小臼歯）
　6　カラベリー結節（上顎第1大臼歯）
　7　第6咬頭と第7咬頭（下顎第1大臼歯）
　8　Protostylid と頰面にみられる小窩(下顎第1大臼歯）

III　歯根の異常
　1　数の異常（下顎犬歯，上顎第1小臼歯，下顎第1小臼歯，下顎第2小臼歯，上顎大臼歯，下顎大臼歯）
　2　弯曲の異常（上顎中切歯，上顎犬歯）
　3　ほうろう滴（下顎大臼歯）
　4　白亜質の増成とその組織切片(上顎大臼歯，下顎大臼歯）

なお，とくに次のことを強調した．

1）上顎犬歯の最も長い歯は全長 34.2 mm，歯冠長 12,1 mm，歯冠幅 8.2 mm，歯冠厚 9.1 mmで歯根長が 22.1 mm である。また，上顎中切歯の短かい歯は全長 17.0 mm，歯冠長 10.8 mm，歯冠幅 8.6 mm，歯冠厚 7.3 mm で歯根長が6.2 mmである．いずれの歯も歯冠の大きさにはあまり変化がなく平均値に近いが，歯根の長さに変化がみられる。また，短かい歯牙の歯根面は数個の小孔を有することが多い。とくに，短かい中切歯の歯根面に多くみられる（表1）．治療の際注意が必要である。

2）前歯は4発育葉から形成されるという R. C. Wheeler らの説に反し，正常な前歯は永久歯でも乳歯と同様発育葉によって形成されるが，深い盲孔を有する側切歯と舌面歯頸隆線の高い犬歯ではレチウス条によって舌面歯頸葉が独立した発育葉として観察出来る（図1）．

3）下顎第2小臼歯の2根については近心的，または，頰舌的に分岐した2根についての報告はあるが，ここでは斜めに分岐した1例についてのべる。根面溝と分岐の関係について奥村は歯根の近心面にみられる2つの溝が歯根癒合の痕跡であるとのべている．また，G. V. Black 等は歯根の頰面と舌面にみられる溝が癒合の痕跡であるとしている．しかし，この1例はいずれにもあてはまらず，頰面の溝と近心面にみられる溝の舌側溝が深くなって分岐した様に考えられる（図2）．

文　献

恩田：歯の長さの解剖学的研究
　岩手医学雑誌 20 巻 6 号（1969）
恩田：歯根の長さと歯根面にみられる小孔
　歯科学報 69 巻 9 号（1969）

* 第1回，昭和47年12月8日開催

恩田：歯の発育葉に関する解剖学的研究
歯界展望臨時増刊 35 巻 6 号（1970）

恩田：2 根を有する下顎第 2 小臼歯の 1 例
歯科学報 71 巻 5 号（1971）

表 1　上顎中切歯の歯根長と根端孔の数との関係

歯根の長さ(mm)	歯数	根端孔の数			
		1	2	3	4
6.00- 8.99	3		1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)
9.00-11.99	23	11 (43.8)	7 (30.4)	4 (17.3)	1 (4.3)
12.00-14.99	14	10 (71.4)	4 (28.5)		
	40	21 (52.5)	12 (30.0)	5 (12.5)	2 (5.0)

注：括弧内はパーセントを示す。

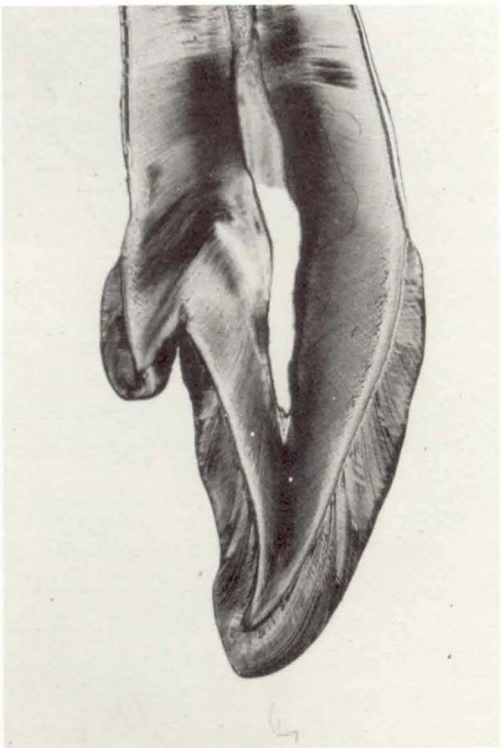

図 1　上顎側切歯の育孔の深い歯

図 2　2 根を有する下顎第 2 小臼歯の近心面